



天保七
申年
大相撲評判記
大阪部
下

多 9
1569
34



門ヲ録
1569
巻 3 止

相撲評判記卷之三

七日目



西

初めを合よりなりなりあひ又ハ押合
のちたう四つおわり下なるハハツ
二かじめを合よりなりなりあひなりなり
西よりなりなり押出後陣なり

勝陣
ハツ橋

西

初めを合よりなりなりあひなりなり
押合むと押合なり押出三熊なりなり
二かじめを合よりなりなりあひ三熊なりなり
押合なりなり押出又三熊なりなり

麓獅子
三熊野

西

合よりなりなり四つなりなり押出二柱なり
二かじめを合よりなりなり四つなりなり二柱なりなり
なげかて合西上されなりなり三柱なりなり
東よりなりなり四つなりなり右なりなり
三かじめなりなり四つなりなり投なりなり

二柱
高嶋

二評判記三

西 立合より双方けりくちのあひかひまり
しりくもどふたは右四ふかりてを合
一たし入るまをくつとあはとも勝負
つとむよりとたを引かる

綾ノ戸 越ノ浦

西 立合より双方おさくあひ押立押は
くまろをくたつりくまどつて右四ふ
かり勝負つとむと一たし入てのち時決
あ付下まわは時決うち

岬川 鳴澤

西 初をん立合よりむかうけりくちのま
を結石うけとあつひお押出つめ石うち
二たしめ立合よりたり四ふかりわし合
まをくあつとさげ出つめ石うち

諧石 玉葛

西 初をん立合より双方まげく押合吹上
よりお府むかふ勝負投吹上うち
二たしめ立合よりたり四ふかりわし
あひつひお下まあげあて吹上うち

黒岩 吹上

西 初をん立合よりた四ふかり景修
上まどり押投景修うち
二たしめ立合よりおさく合のち右四ふ
かり西の方へ押出つめ石うち

榮嶋 時津川

西 初をん立合よりたのあひ双方まど
りち南の方へ押出つめ石うち
二たしめ立合よりたり四ふかりわし合
あの方まげ出つめ石うち

松嶋 桂山

西 初をん立合よりたり西ふかり金子松
あはあつひ入引付南へ押出つめ石松
二たしめ立合よりたり四ふかり上ま
あつわがを勢見崎うち

勢見崎 金小松

西 初をん立合よりた浦より右引ま
押出つて屏風浦うち
二たしめ立合よりたりあつて後たり四
あつりまげ出つて浦うち

屏風浦 漣

東西 初めは立合より双方をひのけりく
おそいのちのそく押出しあはせり
二かじめ立合より双方をくおひまけり
あつて又西方より押出あはせり

荒灘 雲鶴

東西 初めは立合より右四ツあり左は
合つて下をわげはる山なり
二かじめはく立合より左四ツあり
多むさうわげはる山なり

築嶋 鼓山

東西 初めは立合より双方をひのけり
わりのくか合を投あま山なり
二かじめ立合より右四ツありわりの
あつて東方より寄付わり投あま山なり

玉ヶ嶋 錦山 小川内

東西 初めは立合より左四ツあり西方より寄付
押出して三風山なり
二かじめ双方立合より四ツあり三風山が
あつて東方より寄付わり投あま山なり

三國山 小松嶋

東西 初めは立合より双方をひのけりく
追まのり鑑川より東へ押出し西なり
二かじめ立合より右のあひ及右四ツあり
くねわげ又よりの川なり

鑑川 菊ヶ濱

東西 初めは立合より双方右四ツあり左は
よりの内がけを押しまうりなり
二かじめ立合より又右四ツありか合
下をわげはる山なり

皆ヶ嶋 大錦

東西 立合よりわげくものあひ右四ツあり
わ合つておまがきして丹なり
二かじめ立合よりわりのあひた四ツ
あり西方より上るよりのわげ丹なり

門 松ノ音

東西 初めは立合より二かじめ三かじめして右四
ありわりのあつて下を投あま山なり
二かじめ立合より右四ツありわりの
東方より上るよりの投あま山なり

大鳴戸 樊噲

東西

初合より合よりすくすくすのあひま儀を
追まくり東方より西南へ押出さるる世を
二合め合よりすくすくすのあひま儀を
合又東方より北の方へ押出さるる世を

駒達
初瀬野

東西

合より双方をげく押合あつ川より
なつとまの儀をのうへあひま儀を
あひま儀をのうへあひま儀を
入さるる世を

荒川
音ノ瀬

東西

初合より合よりすくすくすのあひま儀を
よりを引込ねなげ社の儀を
二合め合より北の方よりあひま儀を
東方よりすくすくすのあひま儀を

象ノ峯
秋ノ嶋

是より前頭

東西

合より双方押合
あひま儀をのうへあひま儀を
あひま儀をのうへあひま儀を
あひま儀をのうへあひま儀を

今日
出籍
棧
戸根川

東西

合より双方の合
あひま儀をのうへあひま儀を
あひま儀をのうへあひま儀を
あひま儀をのうへあひま儀を

今日
出籍
三ツノ森
朝日浮

東西

合より双方はくすくすのあひま儀を
合よりすくすくすのあひま儀を
あひま儀をのうへあひま儀を
あひま儀をのうへあひま儀を

今津浮
三笠山

東西

立合より双方を〇あひまをさうく
あつて一文字をけく押さるを山
ふまとまりて又押あどを二文字を
信とまりてあつてあつてあつて押出
一とん一とん

一文字

男鹿山

東西

立合より双方をけく押合らるく
ふまとまりて綾川より押進て又糸の糸
より押あつてたふふかをつり押
まくりつひふあつて川より押切東の方へ
押出—綾川より

朝ノ戸

綾川

東西

立合より双方をつりあひまをさうく
つりあひまをさうくの三つ鱗をの出まんと工
まのふまをさうりとも糸とまひ大力の
天は風つりたきまをさうりつりま西の
方へ押出—天津風より

三ツ鱗

天津風

東西

立合より双方をつりあひまをさうりの玉川
よりつりあひまをさうり終ふ右四つわり
ともふ汗あふたつてまを合しおま
まより上よりヤツとつりあひまをさうり
かまより西の方へ押出—黒雲より

玉川

黒雲

東西

立合より双方をつりあひまをさうり終ふ
右四つわりつりあひまをさうり
たふふまをさうりつりあひまをさうり
押—あつてとまをさうりつりあひまをさうり
あつてのけけつりあひまをさうり

二所関

相生

東西

立合より双方をつりあひまをさうり
あつて右四つわりつりあひまをさうり
とあつてつりあひまをさうりつりあひまをさうり
つりあひまをさうりつりあひまをさうり
のふ押出—関谷野より

関谷野

四ツ車

西 東

互合より双方けんくまのあひあひ
トせ合とて右四ふちうりうくもどつ
くそめ合お柳上も小松山下も双
方よりあひあひあひあひのちあひ
一ふふ去儀より後復なり

小柳
小松山

申入後

西 東

初めん互合よりちのあひ不達より押
まろ右引まろ押進ひまろ炮ま
二めんめ互合よりちのあひひくあろ
のち右、たまえどろむどろろろ

大達
向鉄炮

西 東

初めん互合より右四ツあたり双方押合
のち下手なりて七面山ま
二めんめ互合より左四ふちうりてめ合
も方より上まより出ー投相ま後

七面山
桐ヶ嶽

西 東

互合よりちのあひひくまどはさ
後をり四ふちより後復つる二めん入
双方まどまどまもあひあひあひ
とあまも終ふ後復つるま

草摺
勇山

西 東

互合より双方退付あひまげくひ
のちつふ西方より押出ーま山ま
二めんめ互合よりひくあ付あひ
又西方より押出ーま山ま

真嶋山
錦山

西 東

初合双方けんくまのあひまげく押ま
ひくま教あま西方より右ま
まままあつてまま投あま
二めんめひまあま

梅ヶ枝
白石

是より前頭

東西
立合より双方けりく押えあひ仮
家川よりまひりまきむを
握り後右引申一のこり西とまき
たぐえを投橋う渡り

仮家川
握り濱

東西
立合より双方おえあひ志をく押
して押しゆく終ふたり四糸なり
双方ももりゆく合終ふ西より
さか出り若柳なり

若柳
鳳山

東西
立合志をくくもりて
双方なりく立合二を
さそひあひあがり
押出りて松の浦なり

立川
松ノ浦

東西
立合より双方をわくをのあひ漣
より押し之をと繩をり又押し
終ふ右四糸より互糸上まきと
まれども腰をよりまてとまき後
負つたれをあひて後引なり

漣
繩張

東西
立合より双方をげく押合まき
あき源氏山より押しむと西方
是をよりしてたれを引たりまき
よりよりたげおておうち渡り

大蛇浮
源氏山

東西
立合より双方けりく押えあひゆ
多をつり武隈より押しむ所を
和田の系よりめ又押しむとま
まやたうへまきなり和田の系なり

武隈
和田原

東西

互合より双方をけくともあひまを
らくあさきたる四ふなりともあふ内
のしとせし一物教の切者おれはよく
妙もとうく一押合を合つひあ西方
あ附をさひ投あていふるも

鰐石 錦

東西

互合より左をけくともあひまを
る教あつてあさ取よりともあさるを
頂うけくともあをさく二丁かけを
あがんとまきあふあさともあさる
ま西の方へ押出へ頂う

荒磯 頂

八日目

東西

互合より双方をけくともあひまを
らくあひまをけくともあひまを
あさるくともあさるくともあさる
あさるくともあさるくともあさる

中川 朝尾川

東西

初合より互合よりたり四ふなりて押
あひのちのりかけ押大まげりなり
二合め互合より同じたり四ふなりて
東方より上よりさけか大まげりなり

大茂 岩ヶ嶽

東西

初合より互合より双方をけくともあひまを
らくあつてあの方へ押出ひるせ川なり
二合め互合より右四ふなりてあつて
つて後下を投ひるせ川なり

廣瀬川 綾浪

東西

初合より互合よりたり四ふなりてわさ合
西方より上よりさげましむかすなり
二合め互合より同じたり四ふなりて
くまあつて下をあげむかすなり

政勝 王出嶋

東 西

立合より双方けりくたき合後右四
あかりのりくくし合後右つくとを
へてあると傍より押し立のころころ
またおしく投鳴戸崎うら

荒岩 鳴戸崎

東 西

初むん立合より双方けりあひあひ山
とひはあたり引込むねち投之り
二むんめ立合より双方けり合後方より
とひ返をさし下子投おうち山うら

大蛇山 宮川

東 西

初むん立合より右四ふかりあをさく
ゆき合けり一投竹のぎくち
二むんめ立合よりあ方たりさし教山より
押ささるおさるさしと投竹柱うら

竹拉 都山

東 西

初むん立合よりあひあひのち若狭川
うさずかおせとそのまきさかおし
二むんめ立合よりあひあひのち若狭川
とひ返つたを右、後更なり

藤浪 若狭川

東 西

初むん立合より双方けりくたきあひ
のりくくあつち後押出さし若狭川
二むんめ立合より双方けりくち合のち
たきまきさし下子投おうち山うら

鬼岩 虎渡

東 西

初むん立合よりあをさく境より右さし押
出さしあをさくち
二むんめ立合より双方けり合後右溪
よりとひ返さしと投さし山うら
三むんめたり四ふかり下子投おささるち

白滝 若湊

東 西

初むん立合より双方押合あをさく
押ささるとたりさし投鳴戸崎うら
二むんめ立合よりりりあつちあさる
よりたさし下子投あやがさるち

嶋ヶ崎 綾鶴

東 西

初むん立合よりあひあひ立板をり
さしあの方へ押出さし立板うら
二むんめ立合よりたきまきあひのりくくあ
のちたきまきと投おささるち

立板 棒火矢

東 西

初をん五合より双方をげくまの合カ石
二をんがは西を左に打まり押出日の出山後
二をんがは五合より双方をのあひつりくま
つり西より左に打まりさげ出日の出山うち

カ石
日出山

東 西

初をん五合より左なり四ツふたりまらり
り五合の方へ押出玉がうらうち
二をんがは五合より左なり四ツふたり押合
西より左に打まりさげ出玉がうらうち

二子嶋
玉ヶ嶋

東 西

初をん五合より右なりあひくまの合まらり
あつて左よりあつて押出あつてあつて後
二をんがは五合より右なりあひつりくま
西方より左に打まりあつてあつて後

梁
荒灘

東 西

五合より双方をげくまの押合つり
まらりつりつりあへども後有ははら
二をんがは五合より右西ふたりまらりつり
り合つりあつてあつて後山をら

鼓山
三國山

東 西

初をん五合より双方をのあひくまの
左より西の方へ押出後が谷をら
二をんがは五合より右西ふたりまらりつり
西方より左に打まりあつてあつて後

熊ヶ谷
柳嶋

東 西

初をん五合より右なりけがらり
くまをのあつてあつて後七面山うち
二をんがは五合より左なり四ツふたりまらり
あつて西より左に打まりあつてあつて後

鬼勝
七面山

東 西

初をん五合より右なり合はた四ツふたり
左より右に打まり出後が谷をら
二をんがは五合より左なり四ツふたりまらり
西のより左に打まりあつてあつて後

桐ヶ嶽
宮ヶ嶋

東 西

初をん五合より双方をのあひくまの
くまをのあつてあつて後舟うち
二をんがは五合より左なりけがらりくまの合西方より
左より右に打まりあつてあつて後舟うち

初瀬野
門

東 西

初をんを合より双方をのあひ西方を
右引こもてね出ー約達をち
二をんめを合より日くもあひ東方
左引こもてね出ー約達をち

朝鶴 駒達 林川

東 西

初をんを合より左引四ツふかり表を
右引こもてね出ー約達をち
二をんめを合より日くもあひ東方
左引こもてね出ー約達をち

草招 錦山 鎧川

東 西

初をんを合より左引四ツふかり表を
右引こもてね出ー約達をち
二をんめを合より日くもあひ東方
左引こもてね出ー約達をち

白石 荒川 象ヶ峯

東 西

初をんを合より左引四ツふかり表を
右引こもてね出ー約達をち
二をんめを合より日くもあひ東方
左引こもてね出ー約達をち

勇山 梅ヶ枝 滝ノ音

東 西

初をんを合より左引四ツふかり表を
右引こもてね出ー約達をち
二をんめを合より日くもあひ東方
左引こもてね出ー約達をち

朝日浮 茂リ松

東 西

初をんを合より左引四ツふかり表を
右引こもてね出ー約達をち
二をんめを合より日くもあひ東方
左引こもてね出ー約達をち

是より前頭

是より前頭

東 西

初をんを合より左引四ツふかり表を
右引こもてね出ー約達をち
二をんめを合より日くもあひ東方
左引こもてね出ー約達をち

二言 辨言 三

東 西

互合より双方をひらけあそびあつたり四ツふちなり大湊とが押さくむ所のなりがけふて大湊と

前澤 大湊

東 西

互合より双方をひらけあそびあつたり四ツふちなり大湊とが押さくむ所のなりがけふて大湊と

羽衣 若虎

東 西

互合より双方をひらけあそびあつたり四ツふちなり大湊とが押さくむ所のなりがけふて大湊と

岬野 棧

東 西

互合より双方をひらけあそびあつたり四ツふちなり大湊とが押さくむ所のなりがけふて大湊と

立田岩 三ツ森

東 西

互合より双方をひらけあそびあつたり四ツふちなり大湊とが押さくむ所のなりがけふて大湊と

縄張 一文字

東 西

互合より双方をひらけあそびあつたり四ツふちなり大湊とが押さくむ所のなりがけふて大湊と

源氏山 勝尾山

東 西

互合より互あらくるのあひあひは
のち右四ふちなりあはれ入る後
つらど一むし入てのち東より引付て
押出—由ら川

楓川
屏風浦

東 西

互合より双方けんくあはれ合つら
あつて右四ふちなりあはれ合つ後
つらど一むし入てのち東より引付て
あはれ投つてあはれ

若ノ浦
築嶋

是より前頭

東 西

互合より互あらくるのあひあひは
あつて右四ふちなりあはれ合つ後
つらど一むし入てのち東より引付て
あはれ投つてあはれ

玉湊
梶ノ濱

東 西

互合より双方けんくあはれ合つら
あつて右四ふちなりあはれ合つ後
つらど一むし入てのち東より引付て
あはれ投つてあはれ

三笠山
太秦

東 西

互合より互あらくるのあひあひは
あつて右四ふちなりあはれ合つ後
つらど一むし入てのち東より引付て
あはれ投つてあはれ

鳳山
今津浮

東 西

互合より互あらくるのあひあひは
あつて右四ふちなりあはれ合つ後
つらど一むし入てのち東より引付て
あはれ投つてあはれ

男鹿山
松ヶ枝

東西

立合より双方けくくまのあひ又かひ
まやりのちたり四つふたりてゆゑ合ひも
後石つくと二をん入立石より押さる所
東の方より多りやまかなげ紙の浦なり

立石
越ノ浦

東西

初をん立合よりたより四つふたりより
ゆゑ合ひより投ちる所なり
二をんめ立合より同じくたより四つふたり
のかりげけ投ちる所なり

音柳
鳴澤

東西

初をん立合より押さるあひ千本山なり
よ返るなり四つふたりまげけ千本山なり
二をんめ立合よりけくく押さるあひたり
四つふたりより投ちる所なり

千本山
初瀬川

東西

立合より双方たより四つふたりよりゆゑ合
ひより投ちる所なり後
一をん入あけけけけけとあへも
しゆふつとれれとけけけ

勢見岩
弓ヶ濱

東西

立合より双方まげくまのあひ
押あふところを勢見とて
左右に引かす

雲鶴
鈴檝

東西

立合より双方けくくつとまりあひまが
くあつと押さる二投なり
二をんめ立合より同じくつとまりあひて
又西の方より押さる二投なり

二柱
秋津川

東西

初をん立合より右四つふたりてかき合
ひよりあつと下を投あひの川なり
二をんめ立合より同じく右四つふたり
あつとあつと上を投あひの川なり

真住山
芦ノ川

東西

初をん立合よりたより四つふたりてかきあひ
西より上を投けえし投あひ破くなり
二をんめ立合より双方つとまりあひて
東の方へ押さるしゆふつとるなり

三津濱
荒磯

東西

初をん立合よりさげく押合志づく
あつて東の方のさへ押出一つあそむ
二をんめ立合よりさへあひたり四ツあ
ひ多くあて下まなげ橋の戸も

誥石
換ノ戸

東西

立合より双方はるちりあひり多く
つらのち押合勝負つらむ二をん入
初陣より押さるる初志岩なるさ
押まると下まなげ黒岩も

黒岩
初陣

東西

初をん立合よりけかく押さあひ志え
らあつて西の方へ押出さるるあそむ
二をんめ立合よりさへあひたり四ツあ
ひり押合さげ出さるる勝ヶ峯も

勝ヶ峯
嶋ヶ崎

東西

初をん立合より押あひり多くあつて
さのさへ押出さるる松林も
二をんめ立合よりたつ四ツあひり
合て東より上まるとり投九国山も

松林
九国山

東西

立合より双方さけくさへあひ又さ
ささきあひのち時は川より右をさ
か合て勝負つらむ二をん入さのち
すさ投は川も

廣瀬川
時津川

東西

初をん立合よりさへあひせが候も
ささきあひのち時は川より右をさ
二をんめ立合より押さへあひ西方より
たつさ肉むさう投いせう候も

伊勢濱
斤男浪

東西

初をん立合よりたつ四ツあひり
か合下ま投ささきあひも
二をんめ立合よりたつ四ツあひり
西方より上まるとり出殺業も

榮嶋
宮城野

東西

初をん立合よりたつ四ツあひり
下まなげささきあひも
二をんめ立合より押さへあひ西方より
三をんめ立合よりたつ四ツあひり
ささきあひささきあひも

玉出嶋
矢筈山

東西

互合より双方をひあひあせりて
あり四ツふなり双方より押しあせり
をつら一をん入てのちあせりて
り互合ども務むつらむを右へ引る

鳴戸浮
大磯浪

東西

初をん互合双方押しあひあせりて
のち西方よりなきこを投すわち山を
二をんめ互合よりをひあひ西方より
へりきそのま押しあせりて山を

待乳山
鬼岩

東西

初をん互合より右四ツふなり押し
ひ互合押しあせりてぎら
二をんめ互合よりをひあひ東方より
引るむむねむら投すの尾を

竹拉
鷺ノ尾

東西

初をん互合より押しあせりて
よりとびはあせりて入る又投す
あせりて

白川
荒海

東西

互合より双方をひあひあせりて
東方より押しあせりて投す
二をんめ互合より押しあせりて
押しあせりて

一貫
連

東西

互合より押しあせりて押しあせり
押しあせりて押しあせりて
二をんめ互合より押しあせりて
押しあせりて

旭鶴
宮柱

東西

初をん互合より押しあせりて
西方より押しあせりて押しあせり
二をんめ互合より押しあせりて
押しあせりて

三ツ鱗
小松嶋

東西

互合より押しあせりて押しあせり
押しあせりて押しあせりて
二をんめ互合より押しあせりて
押しあせりて

三徳山
初嵐

二言并言

東西

初をんを合より右四ふわりてを合
ちがう投たれのありなり
二をんめを合より右四ふわり東方が
とをんよりさげ出ー後よりなり
三をんめけく右四ふてさげ出る武後

滝登
藤武

東西

初をんを合より右をひは右四ふ
のかりけ投らうなりなり
二をんめを合より右をひ西方をたう
さー東の方へ押出ーぶうふ浦なり

深
屏風浦

東西

初をんを合より右をひあふなり
より退行す西の方へ押出あふなり
二をんめを合よりあふなり西方
よりてつちうを投あふなり

荒灘
錦山

東西

を合より双方をひくせをひは左
四ふわりなりなりを合二をん入て後手
とつちうをひあふなりを合なりなり
よりてつちうをひは左なり

玉ヶ嶋
雲鶴

東西

初をんを合より右をひ甲石とびは
右より東へ押出ー甲石なり
二をんめを合より右四ふわりなり
あつて後けさー投あふなり

甲石
鬼勝

東西

初をんを合よりあふなりを合
四ふわり東方よりを合なりなり
二をんめを合より右四ふわりなり
さげ出ーを合なり

柳嶋
樊噲

東西

初をんを合より右四ふわり西方より
を合なりなりを合七面山なり
二をんめを合より右四ふわりなり
とつちうを合なりなりを合なりなり
りれのち下を合なり

七面山
白石

東西

を合より右四ふわり丹より上より
さげ出ー丹なり
二をんめを合より右をひ東方を
さー下を合なりなりを合なりなり
件と日なるなりなりを合なりなり

門
音ノ瀬

二評川記三

廿一

東西

初はえ合より双方をいあひの遠方
右引込こねわげの遠方
二つめ合より右の四つふわりてか
合錦山より上の子を内へけりてあ附出
き山より

駒達
錦山

是より前頭

東西

合より双方をいあくとも合
つらくを殺あつて後走ともか
あ附右とこを走らるる
西の方へ出るべきは

白菊
漣

東西

合より双方けりくともあひま
アそたより四つふわりつらくとも
わ合あへ浪よりすれあへて右を
引こも二つは投あへ浪より

棧浪
荒浪

東西

合より双方をいあひ
あつて梅えか右
あ付をいあひ投梅えか
のこもをいあひ投梅えか

今日
出稽

梅々枝
岬野

東西

合より双方をいあへてかへあひつら
をさつて押えかへて行虎
きびくかへてあへてさへて着
け三竹山より

竹虎
三竹山

東西

合よりをいあへてあひ進まりて
のちたより四つふわりたがひよよと
んとあへてあへてさへて若柳より
あ付かへて若柳より

若柳
男鹿山

東西

立合より双方けりくおとあひりく
る殺あつと後三ツの處よりてけり
井よりる所あり山あまるときりて右と
引るけりてぞ殺あり山うら

三、森
鳳山

東西

立合より双方たむりけ合
けりてあひりて
あひりてあひりて
東方より押出松の浦後

駒達
松ノ浦

東西

立合より双方たむりけりてあひりて
より精力とてけりて押する天は風
あひりてあひりてあひりて
さる西の方へ押出天は風うら

朝ノ戸
天津風

中入後

東西

荒川
穂ノ嶋

是より前頭

東西

立合より双方あつとあひりて
あひりてあひりてあひりて
よりとびはあまの松を中へあひり
押まると下まなげあひりて

錦塚
峯ノ松

東西

立合より双方よりあつてもの合又を
押あひのちくあつて朝日くさふたり
さし押さるるとる若く厚ふるとまり
おて押出さんとまるとふままりて東
へ押さるると旭がさうち

若虎
旭浮

東西

立合よりけりくもの合のち一文字ふ
たりさし若く附て押さるると小て物を
とまりのちくさつてさし若くけふさ
とまるとさし一文字ふりくさつてさし
さし押さるると

一文字
小天狗

東西

立合より双方をひあひのちたり四ふ
たりてさし合ひくさつてさし一ふ
さしよりさしあふとも後さつて
あつてのちたさし引かふ

大熊
繩張

東西

立合より双方をさあひ
さあつてあつて四解がさし
押さるるとさしとまりて
さあつて押出あふま後

荒永野
四明嶽

東西

立合より双方けりくおさあひ大蛇が
より押さるると和田原系押さるると
りくさしをさし双方組合ふさ方
とまりよりさし押出さし和田原系さうち

大蛇浮
和田原

東西

立合よりさしけりくもの合のちたり四
あつてさし合ひ朝風よりつとく押
さるると二所うさし押さるるとさし
内けりて投二所うさうち

二所關
朝風

十日目

東 互合より双方けりく押合よりまねて
後右つらぎを二をへ入てのち右右一をい
こけさるい佐野の海へ上りれども力の
つれて右をさるるなり

八ッ橋
伊勢海

東 初をん互合よりまねくをのあひ西
より押出せりまねくをのあひ西
二をんめ互合よりまねの合を方かた
よりけりてまねけり投時を若く

鳴戸岩
若緑

東 初をん互合よりまねのち右を四つふなり
左方よりまねけりまねけりまねけり
二をんめ互合より右四つふなり左方より
まねけりまねけりまねけり

城ヶ峯
綾浪

東 初をん互合よりまねのあひ西よりまね
引込を右よりまねけりまねけり
二をんめ互合よりまねまねあひ東より
まねけりまねけりまねけり

沼嶋浮
宮川

東 初をん互合よりまねたよ西横より
押出せりまねけり
二をんめ互合より右を四つふなり西
よりまねけりまねけり

雷門
松鶴

東 初をん互合よりまねのあひ西よりまね
まねよりまねけりまねけり
二をんめ互合より双方まねけりあひ互
よりまねのあひまねけり

立板
白旗

東 初をん互合よりまねけりく押合より
あひ西よりまねけりまねけり
二をんめ互合よりまねあひ西よりまね
まねけりまねけり

駒ヶ石
岬川

東 西

初をん立合より双方をのあひまき
より付あまふねが投吹上る
二をんめ立合より右の四ツふなり
カ合下もあけ吹上る

吹上
榮嶋

東 西

初をん立合より右をけく押合あふ
を引まうりこころこむあふ
二をんめ立合より右の四ツふなり
より内けあて押出あふ

岩々濱
荒浪

東 西

初をん立合より右の四ツふなり
よりあそ投あて投ひせ川
二をんめ同じなり四ツふなり
つひあま押出あふ

廣瀬川
綾鶴

東 西

立合より双方けりあひあふ
あひあふよりあふ
あひ合投あつふ
いあひあふあふ

荒金
二柱

東 西

初をん立合より右の四ツふなり
あふよりあふ
二をんめ同じなり四ツふなり
あふよりあふ

高嶋
玉出嶋

東 西

立合より双方あふあふ
四ツふなりあふ
つふ二をんあふ
あふよりあふ

大蛇山
雲鶴

東 西

初をん立合より右の四ツふなり
こころ西の方よりあふ
あふよりあふ
二をんめ同じなり

秋津川
虎渡

東 西

初をん立合より右の四ツふなり
より付あふ
二をんめ立合より双方あふ
あふよりあふ

竹林
松林

東 初合より合より下を投あし馬々
 西 初合より合より下を投あし馬々
 二を合より下を投あし馬々
 引けりしより投あし馬々

槓音
 荒馬

東 合より双方をわくわく押あひ合
 西 合より双方をわくわく押あひ合
 あつたり四ツふわりて合を合
 ままひくもつたりし合も合
 つくどよりてたを引かる

揚石
 黒岩

東 初合より合より下を投あし馬々
 西 初合より合より下を投あし馬々
 二を合より下を投あし馬々
 二を合より下を投あし馬々

時津川
 伊勢濱

東 初合より合より下を投あし馬々
 西 初合より合より下を投あし馬々
 二を合より下を投あし馬々
 二を合より下を投あし馬々

矢筈山
 待乳山

東 合より合より下を投あし馬々
 西 合より合より下を投あし馬々
 二を合より下を投あし馬々
 二を合より下を投あし馬々

鳴澤
 平瀬岩

東 初合より合より下を投あし馬々
 西 初合より合より下を投あし馬々
 二を合より下を投あし馬々
 二を合より下を投あし馬々

若ノ浦
 屏風浦

是より前頭

東 合より双方をわくわく押あひ合
 西 合より双方をわくわく押あひ合
 あひまわりのちをわくわく押あひ合
 ままひくもつたりし合も合
 つくどよりてたを引かる

大湊
 竹虎

東 三合より双方をばくつてよりあひ
あつえよりあつて押さるる三竹山
あつてよりあつてさへて又さるる山
より押さるる三竹山をばくつてよりあひ
あつてよりあつてさへて又さるる山

三竹山

梅ヶ枝

東 三合よりけりくも合志がくも
さるるのち振うるまきひくも
あひまら押出さるとさるるも
一ふまらさるるもさるるも
あつて一ふまらさるるも

梶ヶ濱

一文字

東 三合より双方押あひ志さるる
右四つあつて押さるるも
さるるもさるるもさるるも
さるるもさるるもさるるも
さるるもさるるもさるるも

和田原

駒達

東 三合より双方をばくつてよりあひ
あつてよりあつてさるるも
あつてよりあつてさるるも
あつてよりあつてさるるも
あつてよりあつてさるるも

四明ヶ嶽

武隈

中入後

東 物さるる三合より双方をばくつてよりあひ
又押合ひさるるもさるるも
つるるもさるるもさるるも
つるるもさるるもさるるも

三徳山

錦山

是より二役

東 西

互合より双方まがくくもあひほたる果
ちりてあひ合ふまをどつて一押互押
ひどつてあひまをより上をより下を
繩張くち

矢勝負

繩張 ロカ
松ヶ枝 ロカ

東 西

互合より双方まがくくもあひあつひま
よりまをよりあつひまをより一押
あひまをより西より東よりまをより
西より東より押半一まをより

弦勝負

越ノ戸 ロカ
緑松 ロカ

東 西

互合より双方まがくくもあひあつひま
よりまをよりあつひまをより一押
押一切押出天津風うち極多のどく
りまの式をより固くお撲と納む

弓勝負

天津風 ロカ
大蛇浮 ハカ

相撲評判記 卷之三 畢

附言

一土俵入の象は陰陽和合を表せり手とニツ打ハ乾坤
陰陽と象をり足を三度ふむハ五倫五體と淨む
るかり手足乃拍子合して五ツ是木火土金水乃
五行を表し邪氣を退く乃義とを
一大内御節會の相撲ハ秋ハ行せり是日日本之
陽國より陽氣と尊む夜秋ハ陰氣生むる初
かれを相撲の陽と氣と以て秋の陰氣とを義と

これを萬葉集まんようまふも大伴の家持おほともが歌出うたすこと
 聖あはとり於おのて出いで行ゆを余波あひりと并あらばけりあえ妻つま。又ハ
 年中行事ねんぢうぎぎ歌合うたあひせありかかここららととああららしし使つかひの急いそだだらら
 くのぬれぬれれををれれととあありりたりり。おど詠よめ里ちう註ちう小い曰ひ
 かかここららととあありり者やとと左さ右みぎここららとと今いまかか名なとといいふふも
 是これより起おこまりまり。ああららしし使つかひとと諸國しよこくの力者ちからとと召抱めいぶ小行せうぎやう
 使つかひとと拔手ぬきてとと力者ちから社内しゃないより勝かちとと最手さいて
 と擇出えらひだををりりへ猶相撲なほあひま大全たいぜんとと書目しよめく小精せうせい六略りくを

上の海波うみのうなままづづののままとと吾われののおお撲ぶのの道みち
 年月としづきままままくくりりととままままをを法ほ律りつ君きみままのの
 おおとと初はつよりよりととおお撲ぶ評ひやう別べつ地ちををととくく
 著あきるる一ひと様さまああののほほももいいとと世よ道みちのの
 ささららああららしし志こころ成なりととままままとといいははししままししくく
 於お年とし毎まい尺せき編ひををははししああららししああららししくく角かくか
 の相續あひつぎせせんん事ことととままのの終はつののいいのの
 本村ハほんむらああららししくく



干時天保七丙申年九月吉日

京都 大文字屋得五郎

日

江戸 丁子屋平兵衛

尾古屋 玉野屋新右衛門

泉州 住吉屋彌三郎

大阪 小刀屋六兵衛

日 河内屋儀助

日 河内屋長兵衛

書房

